

令和3年度 学校評価・後期報告書

愛南町立福浦小学校

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満

上段:R2後期の評定
↓
下段:R3後期の評定

アンケート結果の見方

4...あてはまる
3...おおむねあてはまる → 肯定評価

2...どちらかと言えばあてはまらない
1...あてはまらない

重点目標	評価項目	評価指標・目標値	評定	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	個別評定	肯定率	アンケート結果(%)				
								4	3	2	1	?
1 確かな学力を育てる教育の推進	①基礎学力の定着	<p>評価指標</p> <p>「読み・書き・計算」の基礎学力が身に付いている。</p> <p>目標値</p> <p>(1) 児童アンケート「授業はよく分かりますか。」の肯定率90%</p> <p>(2) 児童アンケート「コンピュータなどを使った学習は楽しいですか。」の肯定率90%</p> <p>(3) 児童の国語科・算数科の単元テスト平均正答率80%</p>	B ↓ B	<p>◇児童の肯定率は90%以上と高く、日々の授業の内容はおおむね理解できていると感じている。また、一人一台端末を活用した授業にも少しずつ慣れ、ほとんどの児童は活用の技能が身に付いてきており、楽しく授業に取り組んでいる。しかし、あまり楽しくないと答えている児童もいることから、これまでの授業とコンピュータを活用した授業とのバランスを大切にしながら行っていく必要がある。単元テストの結果では、平均正答率が80%に達していない児童が3割程度いるなど、学力の個人差が見られる。学年によって国語・算数の習熟に違いがあるが、全体としては、身に付けるべき学力が十分身に付いているとは言えない。</p> <p>◆今後も児童にとって「分かる・できる」授業を心掛け、児童が達成感を味わえるような授業づくりを継続する。教師と複式支援員が連携しながら、児童のつまずきに素早く対応し指導を行う必要がある。また、極小規模校の良さを生かし、引き続き授業や家庭学習で個に応じた指導を充実させ、理解を深めさせられるようにする。</p>	(1)児童ア・2-①	A	92	69	23	0	8	-
		(2)児童ア・2-②			A	92	92	0	8	0	-	
					(3)テスト	C	平均正答率80点を超えたサンプルの割合68%					
	②読書習慣の定着	<p>評価指標</p> <p>読書の習慣を身に付けている。 (1日10分以上、1週間累計60分以上)</p> <p>目標値</p> <p>(1) 保護者アンケート「お子さんは、読書の習慣が身に付いていますか」(1日10分程度、1週間60分程度)の肯定率80%</p> <p>(2) 児童(生活調べ)の「1日10分以上の読書」の達成率 80%</p>	B ↓ B	<p>◇保護者アンケートでは、読書の習慣が身に付いていると回答した割合が中間期に比べて減っている。身に付いていないと感じている保護者も3割ほどおり、本を読む児童とそうでない児童との差が大きいと思われる。2学期は、放課後の陸上練習等で家庭での読書時間の確保が難しい時期があったが、高学年になるほど平日に読書ができない分を、土日で行っている児童が多く、工夫しながら読書に親しむことはできている。また、図書委員会の取組として行った「読書ビンゴにチャレンジ」には、ほとんどの児童が意欲的に取り組むことができた。</p> <p>◆個人差に対応するため、児童の読書量を1か月毎に調べ、学級担任に伝えるようにする。そうすることで、一人一人の読書状況を学級担任が把握し、読書量が少ない児童には積極的に本を勧めるなどの対応が可能となると考える。また、家庭の協力を得るために、学校での図書委員会の取組や読み聞かせの様子などを、ホームページや学校だより等で積極的に発信し、啓発を続ける。</p>	(1)保護者ア・1	B	70	23	47	15	15	-
		(2)生活調べ			C							

1 確かな学力を育てる教育の推進	③家庭学習の定着	評価指標 家庭学習の習慣が身に付いている。 (毎日低学年20分以上・中学年40分以上・高学年60分以上)	B ↓ B	◇保護者アンケート、児童アンケート共に肯定率が中間期より低くなっている。保護者の中には、「身に付いていない」と答えている方が3割程度おり、それらの児童に対しての指導が必要である。生活調べで家庭学習時間が短い児童の中には、ゲームやタブレットの時間が長い児童がおり、家庭に帰ってからの時間の使い方にも課題があると思われる。 ◆家庭学習の目標時間を児童や保護者へしっかりと伝え、宿題が終わったら自主学習をするなど、目標時間を意識させるよう声掛けをしていく。また、自主学習の仕方等を、個に応じて指導していくことも必要である。家庭学習の時間は、家庭での過ごし方とも関連してくるため、家庭と連携しながら望ましい生活習慣の定着のための声掛けを継続していく。	(1)保護者ア・2	B	69	23	47	15	15	-
		目標値 (1) 保護者アンケート「お子さんは、家庭学習の習慣が身に付いていますか」の肯定率 80% (2) 児童アンケート「毎日、決められた時間、家で勉強していますか(土日)」の肯定率80% (3) 児童(生活調べ)の達成率 80%			(2)児童ア・3	A	92	69	23	8	0	-
					(3)生活調べ	C						
2 豊かな心を育てる教育の推進	④道徳教育の充実	評価指標 「考え、議論する道徳」が展開できるよう、道徳科授業の充実を図っている。	A ↓ A	◇児童・教職員アンケートの両方で、100%の肯定率となっており、満足のいく状況にある。しかし、前回のアンケートに比べると、4の評価が減り3の評価が増えており、中でも教職員においては、4の評価が0%となり、3の評価が100%となっている。これはある程度水準には達しているものの、次のステップに進めていないということではないかと思われる。 ◆交換道徳の取組など、これまでの授業実践を振り返り、成果や課題を明らかにしながら、より質の高い指導が行えるように研修を積み重ねていく。	(1)児童ア・4	A	100	46	54	0	0	-
		目標値 (1) 児童アンケート「道徳の時間で、いろいろな考えを話し合うことができましたか」の肯定率90% (2) 教職員アンケート「問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れ、考え議論する道徳科の充実を図ったか。」の肯定率90%			(2)教職員ア・1	A	100	0	100	0	0	-

<p>⑤あいさつ・返事運動の推進</p>	<p>評価指標</p> <p>相手の目を見て「あいさつ・返事」ができる児童が育っている。</p> <p>目標値</p> <p>(1) 保護者アンケート「お子さんは、気持ちのよいあいさつや返事ができていますか。」の肯定率90%</p> <p>(2) 地域住民アンケート「子どもたちは、気持ちのよいあいさつや返事ができていますか。」の肯定率90%</p> <p>(3) 児童（あいさつチェックカード）の肯定率90%</p>	<p>A ↓ A</p> <p>◇保護者アンケートの肯定率は、中期の85%から、後期は92%に上昇し、目標値に達することができた。地域アンケートの肯定率は中期・後期ともに100%であり、児童カード達成率も中期・後期で84%と、数値的に下がっている項目はない。</p> <p>日常の児童のあいさつの状況を見ると、集団登下校のような決まった場所や場面でのあいさつはできるが、それ以外の場面（家庭内や地域における個人でのあいさつ）が不十分ではないかと考えられる。</p> <p>◆登下校時のあいさつは、1学期よりも改善し、大きく気持ちのよい声が出ている。登下校指導の際に意識させて、家庭や学校以外でも一人一人が気持ちのよいあいさつをすることの重要性を感じ取らせる指導を継続していく。</p>	<table border="1"> <tr> <td>(1)保護者ア・3</td> <td>A</td> <td>92</td> <td>39</td> <td>53</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(2)地域ア・1</td> <td>A</td> <td>100</td> <td>60</td> <td>40</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(3)児童カード</td> <td>B</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	(1)保護者ア・3	A	92	39	53	8	0	-	(2)地域ア・1	A	100	60	40	0	0	-	(3)児童カード	B						
(1)保護者ア・3	A	92	39	53	8	0	-																				
(2)地域ア・1	A	100	60	40	0	0	-																				
(3)児童カード	B																										
<p>2 豊かな心を育てる教育の推進</p>	<p>⑥家族の一員としての手伝いの推進</p> <p>評価指標</p> <p>家族の一員として、自分にできる手伝いをしようとする意識が育っている。</p> <p>目標値</p> <p>(1) 保護者アンケート「お子さんは、自分にできる手伝いをしようとする意識が育っていますか」の肯定率80%</p> <p>(2) 児童アンケート「家族の一員として、自分にできる手伝いができていますか」の肯定率80%</p> <p>(3) 児童の「生活調べ」での手伝い達成率 80%</p>	<p>A ↓ B</p> <p>◇評価がAからBに下がってはいるが、保護者、児童共に肯定率が100%であった。家族の一員として、手伝いをしようとする実践している状況がうかがえる。特に、保護者の評価が昨年度末から上がっているのは喜ばしいことである。</p> <p>しかし、肯定の内訳をよく見ると、児童の4評価が85%であるのに対し、保護者の4評価は61%であった。生活調べの実態を合わせて考えると、まだ十分ではないと考えられる。</p> <p>◆生活科や家庭科、道徳科などで、家族の一員として自分にできることを考えたり、実践したりすることの大切さを指導する。また、毎月実施している「家庭生活学習調べ」にコメントを書いたり、直接対話したりする中で、具体的な行動を継続的に促しながら手伝いができるよう指導していく。</p>	<table border="1"> <tr> <td>(1)保護者ア・4</td> <td>A</td> <td>100</td> <td>61</td> <td>39</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(2)児童ア・10</td> <td>A</td> <td>100</td> <td>85</td> <td>15</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(3)生活調べ</td> <td>C</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	(1)保護者ア・4	A	100	61	39	0	0	-	(2)児童ア・10	A	100	85	15	0	0	-	(3)生活調べ	C						
(1)保護者ア・4	A	100	61	39	0	0	-																				
(2)児童ア・10	A	100	85	15	0	0	-																				
(3)生活調べ	C																										

<p>⑦規範意識の醸成</p>	<p>評価指標</p> <p>交通ルールをはじめとする社会のきまりやマナーを守っている。</p> <p>目標値</p> <p>(1) 保護者アンケート「お子さんに『やれることややる』『だめなものはだめ』がきちんとできるように注意していますか」の肯定率90%</p> <p>(2) 児童アンケート「きまりをきちんと守っていますか」の肯定率90%</p> <p>(3) 地域住民アンケート「子どもたちは、交通ルールをはじめとする社会のきまりやマナーを守っていますか」の肯定率90%</p>	<p>◇保護者、児童、地域のどの肯定率も、中間期と同様高い評価結果であった。本校児童の規範意識は高く、きまりやマナーを進んで守っている状況がうかがえる。</p> <p>◆下校の際には、児童に対して、必ず交通ルールを遵守するように指導を重ねてきた。それが、児童の危機意識につながっているのではないかと考えられる。今年度はこれまで事故が起こっていないが、今後も児童自身の安全への意識がさらに高まるような登下校指導、生活指導を継続していく。</p> <p>A ↓ A</p>	<table border="1"> <tr> <td>(1)保護者ア・5</td> <td>A</td> <td>92</td> <td>69</td> <td>23</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(2)児童ア・5</td> <td>A</td> <td>100</td> <td>92</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(3)地域ア・2</td> <td>A</td> <td>96</td> <td>52</td> <td>44</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4</td> </tr> </table>	(1)保護者ア・5	A	92	69	23	8	0	-	(2)児童ア・5	A	100	92	8	0	0	-	(3)地域ア・2	A	96	52	44	0	0	4																
	(1)保護者ア・5	A	92	69	23	8	0	-																																			
(2)児童ア・5	A	100	92	8	0	0	-																																				
(3)地域ア・2	A	96	52	44	0	0	4																																				
<p>3 健やかな体を育てる教育の推進</p> <p>⑧健康的な生活習慣の確立</p>	<p>評価指標</p> <p>早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。</p> <p>目標値</p> <p>(1) 保護者アンケート「お子さんは、各家庭で決めた『寝る時刻』を守り、『早寝』の習慣が身に付いていますか。」の肯定率90%</p> <p>(2) 児童アンケート「家で話し合っで決めた『寝る時刻』を守れていますか」の肯定率90%</p> <p>(3) 児童の「生活調べ」での「家庭で決めた目標就寝時刻」の達成率 80%</p> <p>(4) 保護者アンケート「お子さんは、朝食をとる習慣が身に付いていますか。」の肯定率 90%</p> <p>(5) 児童の「朝食チェックカード」の朝食摂取率 85%</p>	<p>◇就寝時刻については、保護者アンケート、児童アンケートともに、肯定率は80%以上である。しかし、生活調べでは、目標就寝時刻が守れている児童は5名しかおらず、保護者・児童の意識と、児童の実態が一致していない現状がある。</p> <p>◆「就寝時刻」の意識と実態の大きなズレについては、PTA全体会や児童朝会で、保護者や児童に伝え、よく考えて改善してもらうように促していく。また、一人一人の実態に応じて、学級担任等から個別の指導を行っていく。</p> <p>「早寝・早起き・朝ごはん」の中でも、「早寝」は「早起き」につながり、「朝ごはん」に結び付くということを啓発していく。</p> <p>B ↓ B</p>	<table border="1"> <tr> <td>(1)保護者ア・6-①</td> <td>B</td> <td>85</td> <td>54</td> <td>31</td> <td>15</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(2)児童ア・8-①</td> <td>A</td> <td>92</td> <td>77</td> <td>15</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(3)生活調べ</td> <td>D</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(4)保護者ア・6-②</td> <td>A</td> <td>100</td> <td>85</td> <td>15</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(5)児童カード</td> <td>A</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	(1)保護者ア・6-①	B	85	54	31	15	0	-	(2)児童ア・8-①	A	92	77	15	8	0	-	(3)生活調べ	D							(4)保護者ア・6-②	A	100	85	15	0	0	-	(5)児童カード	A						
(1)保護者ア・6-①	B	85	54	31	15	0	-																																				
(2)児童ア・8-①	A	92	77	15	8	0	-																																				
(3)生活調べ	D																																										
(4)保護者ア・6-②	A	100	85	15	0	0	-																																				
(5)児童カード	A																																										

<p>⑨体力づくりの推進</p>	<p>評価指標</p> <p>教科体育の充実（放課後活動含む）や「えひめ子どもスポーツITスタジアム」への参加により、運動・外遊びに親しむ児童が育っている。</p> <p>目標値</p> <p>(1) 児童アンケート「体育の授業、放課後の運動、外遊びなど運動をがんばっていますか。」の肯定率90%</p> <p>(2) 保護者アンケート「お子さんは外遊びや運動に親しんでいますか。」の肯定率 90%</p>	<p>A ↓ A</p>	<p>◇児童は教科体育や陸上・マラソンの放課後体育に意欲的に取り組んだ。教科体育では、領域を問わず様々な運動に親しむことができています。また、ほとんどの児童が参加した放課後の陸上練習やマラソン練習では、全職員での指導体制のおかげで、児童もやる気を維持し練習することができた。</p> <p>教科体育の中で自分自身の成長を感じたり、放課後練習で自己記録が出たりする中で、児童が自信を持ち、評価も高くなったものと考えられる。</p> <p>◆引き続き、様々な運動に親しむよう教科体育や放課後体育を充実させる。鉄棒の逆上がり補助器が壊れている期間があった。修理をすると、すぐに児童は活用し始めた。整備の大切さを感じている。運動する環境を整え、日常的に運動に親しめるよう工夫していきたい。</p>	<table border="1"> <tr> <td>(1)児童ア・6</td> <td>A</td> <td>100</td> <td>77</td> <td>23</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(2)保護者ア・7</td> <td>A</td> <td>92</td> <td>53</td> <td>39</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> </table>	(1)児童ア・6	A	100	77	23	0	0	-	(2)保護者ア・7	A	92	53	39	8	0	-
(1)児童ア・6	A	100	77	23	0	0	-													
(2)保護者ア・7	A	92	53	39	8	0	-													
<p>4 その他</p> <p>⑩特別支援教育の充実</p>	<p>評価指標</p> <p>個別の指導計画を生かし、きめ細やかな指導・支援に努めている。</p> <p>目標値</p> <p>(1) 教職員アンケート「児童一人一人の実態をしっかりと把握して、きめ細やかな指導・支援に努めたか」の肯定率90%</p>	<p>A ↓ A</p>	<p>◇教職員の肯定率は、中期に引き続き100%である。少人数の特性を生かし、きめ細やかな指導が実践できる環境が整っているためであると考えられる。作成した個別の指導計画を生かした実践により、学力が向上している様子がうかがえる。</p> <p>◆今後も一人一人に応じたきめ細やかな指導を継続し、児童の能力を向上させていくよう共通理解を図っていく。しかし、手をかけすぎて、すぐに教師や支援員にアドバイスを求めてしまう実態もあるため、授業展開の中に自力解決の時間を取り入れるなどの工夫を取り入れていく必要がある。</p>	<table border="1"> <tr> <td>(1)教職員ア・2</td> <td>A</td> <td>100</td> <td>67</td> <td>33</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> </table>	(1)教職員ア・2	A	100	67	33	0	0	-								
(1)教職員ア・2	A	100	67	33	0	0	-													

⑪生徒指導の徹底	評価指標 いじめを絶対に許さない・見逃さない学校づくりに努め、楽しく学校生活を送っている。	目標値 (1) 教職員アンケート「いじめは絶対に許さない、見逃さない学校づくりに努めたか」の肯定率90% (2) 児童アンケート「学校は楽しいですか」の肯定率90% (3) 保護者アンケート「お子さんは、楽しく学校生活を送っていると思いますか」の肯定率90%	A ↓ A	◇教職員、児童の肯定率は、中間期・後期ともに100%である。しかし、保護者の中に否定的な評価が見られたり、教職員・児童の4の評価割合が下がり、3に移行したりしている。問題の原因を早期に発見し、対応していく必要がある。 不登校傾向の児童については、保護者や関係諸機関と連携しながら対応を進めているが、児童一人での登校や活動は難しい状況が見られる。	(1)教職員ア・3	A	100	89	11	0	0	-
	◆児童理解や情報の共有については、教育相談や日記指導で、児童理解に努めていく。さらに、保護者との情報共有を進め、児童の「学校が楽しく感じられない」原因を明らかにしながら、対策を具体化していく必要がある。 不登校傾向の児童については、3学期には新たな関係機関と連携することとなっている。今後の対応の仕方を探り、実践していく。本人の状態に合った学習環境、本人が前向きに取り組める学習環境を整えていく。			(2)児童ア・1	A	100	85	15	0	0	-	
4 その他 ⑫防災教育の充実	評価指標 災害等に対する自助・共助の力を育てる安全教育に家庭と連携して取り組んでいる。	目標値 (1) 教職員アンケート「災害等に対する自助・公助の力を育てる安全教育を確実に実施しているか」の肯定率90% (2) 児童アンケート「火事や地震・津波のとき、自分や友達の命を守る行動がとれていますか」の肯定率90% (3) 保護者アンケート「学校は、自助・共助の力を育てる安全教育に取り組んでいますか」の肯定率 90%	A ↓ A	◇教職員、児童、保護者ともに肯定率100%となり、高い評価結果となっている。 地震・津波への対応では、昨年度の避難訓練の反省を生かし、様々な状況下での実践的な訓練を取り入れた。「想定外の状況」として、①通常の経路がふさがっていて通れない場合や、②地域内（児童がよく利用するおさかな公園）で被災した場合などを設定して訓練を行った。通常とは異なる状況での訓練を通して、自分で考えながら対応することが大切であると意識付けることができた。また、防災頭巾に加えて、防災用ヘルメットも教室に設置し、より安全に避難できる体制を整えた。 また、ここ数年実施していなかった不審者対応訓練にも取り組んだ。怖がる児童が多く、改めて訓練や経験の積み重ねが必要であると分かった。こうした新たな取組も、ホームページや学校だよりで発信し、保護者や地域住民へ周知することができている。	(1)教職員ア・4	A	100	89	11	0	0	-
	◆2学期末に行った津波・地震の避難訓練では、やや気の緩んだ面が見られた。なぜ避難訓練を行う必要があるかを再度確認するとともに、活動がマンネリ化しないよう状況設定を工夫し、自ら考えながら真剣に訓練に取り組めるようにする。また、地区の自主防災会に協力を依頼して、いろいろな場所での避難経路や防災倉庫などの確認を進めていく。			(2)児童ア・7	A	100	92	8	0	0	-	
					(3)保護者ア・9	A	100	77	23	0	0	-

<p>⑬教職員としての資質・能力の向上</p>	<p>評価指標</p> <p>研修や自己研鑽に努めている。</p> <p>目標値</p> <p>(1) 教職員アンケート「研修や自己研鑽に努めたか」の肯定率 90%</p>	<p>◇中間期に比べて、教職員の肯定率は全体としては下がっているが、「4あてはまる」と回答している割合は半分以上に上がっており、それぞれが研修に努めることができたと考えられる。1学期に授業研究を中心とした研修を多く行ったため、2学期は授業研究の回数が少なかった。教職員は、日々指導方法等を工夫しながら実践を行ってきたが、全体で共有し合う場が少なかったのも、評価が分かれた結果につながったのではないかとと思われる。</p> <p>◆校内研修会等を活用し、それぞれの実践を共有し合う場を確保しながら、全教職員で組織的に研修に取り組んでいく。また、校外での研修で学んだことを積極的に報告し合いながら、個々の学びを全体で共有できるようにしていく。クロムブックを使った授業実践についての研修は、引き続き、町のICT指導員等を活用しながら継続して行う。</p> <p>A ↓ B</p>	<table border="1"> <tr> <td>(1)教職員ア・5</td> <td>B</td> <td>89</td> <td>56</td> <td>33</td> <td>11</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> </table>	(1)教職員ア・5	B	89	56	33	11	0	-																
(1)教職員ア・5	B	89	56	33	11	0	-																				
<p>4 その他</p> <p>⑭開かれた学校づくり</p>	<p>評価指標</p> <p>学級通信や各種たより、ホームページ等を通して、情報発信に努めている。</p> <p>目標値</p> <p>(1) 教職員アンケート「CSとしての取組や児童の様子を各種通信やホームページ等で月に1回以上発信したか。」の肯定率90%</p> <p>(2) 保護者アンケート「学校は、通信やホームページ等で学校の取組や児童の様子を積極的に発信していると思いますか」の肯定率90%</p> <p>(3) 地域住民アンケート「学校は、通信やホームページ等で学校の取組や児童の様子を積極的に発信していると思いますか」の肯定率 90%</p>	<p>◇昨年度、今年度前期に続き、教職員、保護者、地域全てのアンケートにおいて、肯定率100%の高い評価となった。</p> <p>秋から初冬にかけてようやくコロナ禍も落ち着きつつあるが、それまでは、保護者や地域の方々に学校に招いたり、活動を一緒に行ったりするには制限があった。子どもたちが頑張る姿や、学校の取組を知っていただくためには、学校だよりやホームページでの情報発信がより重要であると考え、毎日のホームページ更新と毎週金曜日の学校だよりの発行を心掛けている。</p> <p>◆毎日のホームページ更新、週1回の学校だよりの発行を継続して、児童の様子や学校の取組を発信していく。その際、本校の学校経営方針や、力を入れている海洋教育の取組、地域・保護者との連携の様子等、本校の特色や良さが伝わるようにし、さらに活動に広がりや生まれるように工夫していく。</p> <p>A ↓ A</p>	<table border="1"> <tr> <td>(1)教職員ア・6</td> <td>A</td> <td>100</td> <td>86</td> <td>14</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(2)保護者ア・10</td> <td>A</td> <td>100</td> <td>77</td> <td>23</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(3)地域ア・3</td> <td>A</td> <td>100</td> <td>96</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>-</td> </tr> </table>	(1)教職員ア・6	A	100	86	14	0	0	-	(2)保護者ア・10	A	100	77	23	0	0	-	(3)地域ア・3	A	100	96	4	0	0	-
(1)教職員ア・6	A	100	86	14	0	0	-																				
(2)保護者ア・10	A	100	77	23	0	0	-																				
(3)地域ア・3	A	100	96	4	0	0	-																				

⑮ふるさとを愛する心の育成

評価指標

ふるさと（地域・海）について学ぶ授業、地域の達人に学ぶ授業（地域人材の活用）、地域とともに行う行事（運動会、自主防災会との避難訓練等）の充実に努めている。

目標値

- (1) 教職員アンケート「地域の方に教わる授業（ふるさと学習や体験学習等）や、地域の方と一緒に活動（運動会、防災学習等）の充実や、積極的な交流・連携に努めたか」の肯定率90%
- (2) 児童アンケート「地域の方に教わったり、一緒に活動したりする学習は楽しいですか」の肯定率90%
- (3) 保護者アンケート「学校は、地域の方に教わる授業（ふるさと学習や体験活動等）や、地域の方と一緒に活動（運動会、防災学習会等）の充実に努めていると思いますか」の肯定率90%
- (3) 地域住民アンケート「学校は、地域の方に教わる授業（ふるさと学習や体験活動等）や、地域の方と一緒に活動（運動会、防災学習会等）の充実に努めていると思いますか」の肯定率90%

A
↓
A

◇昨年度、今年度前期に続き、児童、保護者、地域、教職員の全てのアンケートにおいて、肯定率100%の高い評価となった。
今年度も前半はコロナ禍にあり、地域の方を招いての活動や、地域に向いての活動には制限があった。しかし、そのような状況下においても、本校が力を入れて取り組んでいる海洋教育や、地域の達人に指導していただく野菜づくり、公民館活動等は行うことができた。中でも海洋教育では、それぞれの学年が発達段階に応じた学びを展開し、高学年は、地域の大西水産の協力を得ながら、年間を通して学習を継続することができた。そこでの学びの成果を、他校種との交流会や学習発表会で発表することができ、充実した活動となった。また、親子料理教室では、保護者を対象にした鯛のさばき方講習を行うなど、新しい内容にも取り組むことができた。

◆3学期には、これまでの学びのまとめを行うとともに、来年度の学びへとつなげられるようにしていく。また、残りの期間の中で、海洋教育推進委員会で提案していただいた内容で実施可能なものに取り組んでいく。
本校の教育活動は地域に支えられていることから、今後も、地域と一緒に活動、児童が地域について学ぶ学習を大切にしていく。その際、内容や方法を見直し、工夫改善を加えることで、教科の指導時間とのバランスを図りたい。

(1)教職員ア・7	A	100	78	22	0	0	-
(2)児童ア・9	A	100	92	8	0	0	-
(3)保護者ア・11	A	100	77	23	0	0	-
(4)地域ア・4	A	100	92	8	0	0	-